

1. とうもろこしのシカゴ定期は、3月には370セント／ブッシェル前後で推移していたが、新型コロナウイルス感染拡大によるガソリン需要の減少からエタノール生産が減少していることに加え、米国産新穀とうもろこしの作付面積が増加する見通しであることから、5月には320セント／ブッシェル前後まで下落した。6月には米国産地の高温乾燥による生産量減少の懸念や、6月30日に米国農務省が発表した作付面積報告で、作付面積の増加が市場予想よりも小さかったことなどから一時、340セント／ブッシェル前後まで上昇した。現在は生育に適した天候となっていることから値下がりし、320セント／ブッシェル前後となっている。
2. 大豆粕のシカゴ定期は、3月には330ドル／トン前後で推移していたが、アルゼンチンが大豆粕の輸出税引き上げを発表し、一時350ドル／トン前後まで上昇した。その後、新型コロナウイルスの感染拡大による大豆需要の減退懸念などから軟調な展開となり、現在は320ドル／トン前後となっている。
3. 米国ガルフ・日本間のパナマックス型海上運賃は、2月には40ドル／トン台で推移していたが、南米産大豆の輸出需要の増加により3月には45ドル／トン前後まで上昇した。その後、新型コロナウイルスの感染拡大による輸送需要の減少と原油相場の急落を受けて35ドル／トン前後まで下落したが、中国の粗鋼生産増加による鉄鉱石の輸送需要の増加から上昇し、現在は45ドル／トン前後となっている。
4. 外国為替は、3月には新型コロナウイルスの感染拡大による景気悪化により、世界的に株価が暴落したことなどから一時急激な円高となったが、その後、安全通貨としてのドル需要が増加したことなどから円安が進み、現在は106円前後となっている。

